

PETリサイクルの 行方

大詰め迎える容リ法見直し

[4]

自治体の分別収集・選別保管に係る費用の一部負担の問題では、特定事業者の拡大生産者責任が問われている。しかし、事業者からは「拡大生産者責任は既に果たしている」という声も強い。飲料メーカーなどはペットボトルなどの容器の減容化、回収・リサイクルに知恵を絞ってきた。更に業界では今後の自主行動計画の策定を進めている。こうした中、自治体の処理コストが不明瞭な点、税金で回収した資源を海外に流している点、消費者の役割が不十分な点などに不満が噴出している。

十月に行われたPETボトル推進協議会の年次報告会では、出なかったのは初めてのことと話す。席した記者から中国流出問題など、容リ法を巡る様々な厳しい質問、意見が続出し、会場は一時騒然となった。例年会員に出席して

が高いと言える。同協議会の和田國男会長は、「入札制度は審議会などで議論を深めていくべきだが、中国にPETボトルが流出している状況はおかしい。制度が正常に機能する措置を取るべき」と話す。

指定ルートに乗せないのは、

めて減量化やリターナル容器の利用率が上がるという意見が出ていた。しかし、これに對して全国清涼飲料工業会の太平専務理事は、「拡大生産者責任は様々な努力で果たしてきた。我々は消費者の選択に従わざるを得ない。消費者がPETボトルを求めたい。急速なPETボトルの需要拡大に對するため、飲料メーカー各社が、リターナル瓶を守りたかったが、消費者ニーズには逆らえなかった」という。

発生抑制策限界に近づくと

「処理負担が大きいので有価なことに流さざるを得ない」とい。事業者の負担を重くしてもリターナル瓶の普及には限界がある。PETボトルの重量は従来容器の約三分

社がリサイクルや減容化・軽量化に積極的に取り組んできた。キリンビバレッジは国内最軽量のPETボトルを開発。当初はミネラルウォーターのみに採用していたが、三月から主力商品の「生茶」に採用。以後九月までに四商品に採用した。

特定事業者の責任

以前飲料容器と言えば大半がリターナル瓶だったが、それがやがて缶、更にはPETボトルと消費者のニーズが変化していった。「住宅事情で瓶を置く場がなくな



キリンビバレッジは国内最軽量PETボトルを採用。プリフォームも従来品(左)に比べ大幅に小型化

「価格転嫁は流通業と飲料メーカーという縦の力関係と、同業者との競争という横の関係から言って難しい。ごみ有料化が「現実的」と主張する。今後は消費者の役割についても議論が及ぶことになりそうだ。